

平成 29 年度 第 1 回基幹公共交通・第 1 回バス路線網再編 合同部会 議事録

I 日時等

日時：平成 29 年 11 月 16 日（木）9：30～

場所：熊本市役所議会棟 予算決算委員会室

II 主な内容

1 開会

2 部会長挨拶

（基幹公共交通部会長挨拶）5 月に全体会を開催し、本年度の取り組みを説明したが、その進捗状況について、都市の骨格を形成する基幹公共交通軸と多核的に機能するバス路線網再編について、合同部会として一体的で議論する。今回も活発な議論をお願いしたい。

（バス路線再編部会長挨拶）熊本地震によって、バス路線再編が遅れているが、いくつかの案件は進んでいる。皆さんからの意見によって、前進するよう議論をお願いしたい。

3 議事及び報告

（1）バス路線網再編について

事務局より「資料 1：バス路線網再編について」を説明

（部会長）国からアドバイスをもらいながら進すすめているという説明だったが、意見はあるか。

（委員）運転士不足を心配するが、国からのアドバイスの中でも、そのような状況を認識しているのか。

（事務局）運転士不足の問題は、今の運行でも厳しい状況。国の方でも、熊本の状況を認識していただいている。この問題も踏まえながら、実施計画を作成するようアドバイスをいただいている。

（部会長）今回の分析が、地域型 IC のデータのみということだが、全国型 IC があるのにデータを使用していないのは残念である。

今後、バスの利用者数を増加させるためには、人口減少社会を見据えると観光客の利用者を増やす必要があり、観光客は全国型を利用していることから、そのような県外からの利用者も含めないといけないのではないか。

今回の IC カードの分析では、断面分析だけだが、色々な分析ができるので、もう少し掘り下げて欲しい。

また、国の「持続可能な公共交通ネットワークの再構築は、広域で行うことが効果的で

望ましい。」の広域のとは、どのレベルをイメージしているのか。実際は、路線ごとの細かい再編を積み上げていくのが大事と思うがいかがか。

(事務局) 今回は、事業者から IC データをいただき初めて分析した結果を報告している。地域型 IC は、定期やおでかけ乗車券も含んでいるが、全国型 IC も含めれば、信憑性は上がる。

広域については、公共交通網形成計画では都市圏エリアで作成しているので、まずは進めている都市圏レベルで考えていきたい。

(部会長) 観光客のデータを取り込む場合、全国型 IC は重要であり、そのデータを取り出すのは、費用の面も含めて難しいのか。

(委員) 全国型のデータを取り出すのは不可能ではない。今回は、まず分析用に、事業者が持っている地域型のデータを提供させてもらった。今後、そのことも考えていきたい。

(委員) 国との協議の中で、まず全体像を示す必要があるとのことだったが、熊本市はどのように対応するのか。早く全体像を示さないと、各方面でバラつきが出ると思われる。

(事務局) 全体像は、公共交通網形成計画の中で一度示しているが、どこまで詳細に示す必要があるのかを国と話をしている。

(委員) 住んでいる人にまで分かるように、全体像を詳細に示す必要があるのではないか。そうすれば、市民の再編に対する期待も湧きやすくなると思う。

(事務局) 全体像については、国からの求めがあり、進めているところ。地域も再編には関心があると思うので、分かりやすい形で示したい。

・九州産交バスより「資料1 (参考) : バス路線網再編の実施状況について」を説明

(委員) この結果をどのように捉えて、またどのようにフィードバックするのか。

(委員) まず輸送人員の指標があるので把握したい。まだ、実施直後なのでデータは少ないが、継続して把握していく。また、当社の HP では、利用者からの様々な意見をもらい、回答を公開しており、その意見を今後の見直しに反映させたい。

(2) 報告事項

・バスロケーションシステムの導入について

事務局より、形成計画の施策であることを説明した後、九州産交バスより「資料2 : バスロケーションシステムの導入について」を説明

(委員) バスの乗り換えだけでなく、市電や JR との連携はできるのか。

(事務局) 検索会社と協議していると聞いている。そのようなタイアップで、電車と連携したい。

(部会長) スマートフォンの検索機能は、使用できない高齢者もいることから公共施設や病院などに、費用の問題はあるが、デジタルサイネージのような環境を整えてはどうか。

(事務局) 利用者の視点に沿った重要な意見であることから、公共施設や商業施設等でも協力していただけるような仕組みも今後検討していきたい。

(部会長) バス停近くのコンビニにもあれば便利になると思う。

3 その他

・メイン・サブターミナルの進捗状況について

・市電延伸の検討状況について

九州産交ホールディングスから「参考資料1：新交通センターについて」

熊本駅周辺整備事務所から「参考資料2：熊本駅白川口駅前広場計画について」

熊本市交通政策課から「参考資料3：市電延伸の検討について～概要～」を説明

(委員) 市電延伸の検討については、震災から1年が経ち、厳しい財政状況の中なので、慎重な姿勢で検討すべきでないか。

(委員) メイン・サブターミナルについて、熊本駅前広場は、利用者の意見をwebで聞くとの説明があったが、利用者の意見をいま反映しているのか。今後はどうするのか。

(熊本駅周辺整備事務所) 平成27年度に意見を聞いているが、地震後、広場の計画を見直ししており、今後は、オープンハウスやwebアンケートなどの新たな形で、意見を聞きたいと考えている。

(事務局) 交通センターは、民間による整備が進んでいるが、バス事業者と連携して乗降場など議論していると聞いており、バリアフリーやUDについても、関係団体と協議していると聞いている。

(部会長) 新しい建物なので、完成した後の変更は難しい。どの段階で、何を聞くかは大事になる。

(九州産交ホールディングス) 平成31年8月に竣工予定だが、これまで2回意見を聞く場を設けて反映させている。

(委員) 駅前広場は、先日レイアウト案を公表したが、平面図だと動線が分かり難いことから、イメージをもってもらうためにVRなど利用すると、新たな意見が出てくると思うので周知方法を工夫して欲しい。

(熊本駅周辺整備事務所) 今日は平面図でお示ししているが、パース図や模型で示す機会があれば示したい。

(委員) 施設を作るときには、バリアフリーの話が出てくる。エレベータには、車椅子の人やベビーカーの人が利用すると思うが、使う層を踏まえた上で考えるべきではないか。

(部会長) 利用者に意見を聞くことにより、新たな考えが出るかもしれない。

(九州産交ホールディングス) UDの意見交換会の意見を基にして、トイレやエレベータは、法律規定より大きくしている。

(部会長) バスの排気ガス対応について、数字だけ見ても分からないので、排気の動きな

ど具体的なイメージが分かるように、この場でも出して欲しい。

(事務局) 民間の事業ではあるが、事業会社と協議して回答したい。

(部会長) 事務局から最後に何かあるか。

(事務局) 今日の意見を参考にして進めていきたい。現状では、バス会社の経営は厳しく、運転士の不足の上に、運転士の高齢化も問題になっている。定時性確保には、道路交通も考えないといけないので、道路部局と連携して進めていきたい。

また、バスロケーションシステムの施設への導入について意見があったが、多核連携都市を目指すために、病院や金融機関、公共施設などが集積する地域拠点へのアクセスは重要となるので、まちづくりに寄与する観点から、導入に向けて努力したい。

(部会長) まちづくりの核になる話であるので、その方向で進めてもらいたい。